

嚥下困難者の介護支援研修会レポート

平成 28 年 10 月 21 日（金） 三師会館

金沢区在宅医療相談室主催、金沢ケアマネ倶楽部、金沢区訪問介護事業所連絡会共済による「嚥下困難者の介護支援研修会」が行われました。

会場も一杯となり嚥下状態・予防に関する感心の高さがうかがえました。

始めに在宅医療担当の宮崎暁生先生より、胃ろう患者さんの取組みを通しながら、口腔ケアの重要性をご説明頂きました。また簡易検査（初期スクリーニングで評価）についても分かりやすく講義していただきました。

スマホの無料アプリで入手できるオーラル・ディアドコキネシスでの簡易テストのご紹介もあり、より簡単に身近な簡易テストとして、とても参考になりました。

続いて横浜なみきりハビリテーション病院・言語聴覚



士の廣瀬裕介氏より「ケアマネジメントに必要な嚥下の知識」として、ケアマネジメントの基本の自立支援・生活の質の向上を確認した上で、嚥下障害が起きる原因・喉頭流入と誤嚥・誤飲を疑う症状について、分かりやすい動画を交えながらの説明がありました。口に入った食べ物がどのような経過を経ていくのかがよく理解できました。最後に外来 VF 検査を活かした地域での嚥下障害へのアプローチについての説明があり、「食べる」ことの重要性を再確認する研修となりました。

地域包括ケア病棟とは

『金沢区の訪問看護事業所の特色と訪問看護導入のタイミングについて』の研修会

平成 28 年 11 月 30 日（水） 18:30 若草病院会議室

金沢区訪問看護ステーション管理者会と金沢ケアマネ倶楽部共催により、『地域包括ケア病棟とは』『金沢区の訪問看護事業所の特色と訪問看護導入のタイミングについて』の研修が開催され 40 名が出席しました。

『地域包括ケア病棟とは』として、若草病院医事課・地域医療連携室 太田 信夫氏より、平成 26 年度診療報酬改定で新設された地域包括ケア病棟への若草病院における取り組みとして、平成 26 年 7 月に 20 床開設し、平成 28 年 4 月には段階的に 44 床に変更されていることや入院患者の状況などのご説明がありました。

また平成 28 年度診療報酬改定では、重点項目として地域包括ケアシステム推進のための取組の強化がなされている等の解説がありました。

『金沢区の訪問看護事業所の特色と訪問看護導入のタイミングについて』として、資料をもとに区内 14 の訪問看護ステーションのうち 6 事業所の管理者から各訪問看護ステーションの紹介や訪問看護の利用に関するご説明がありました。

地域包括ケアシステムを支える地域の病院における、地域包括ケア病棟の取り組み等を知ることができ大変貴重な研修会でした。



平成 28 年度南部ブロック合同研修会

平成 29 年 2 月 13 日（月）
18:30 ~ 20:30
ウイリング横浜研修室 124 ~ 127 号室



平成 28 年度南部ブロック合同研修会が開催されました。講師には磯子中央病院・患者総合サポートセンター・医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）渡辺真紀子氏を迎えて「病院の機能（役割）について」の講義でした。

南部ブロック（栄・磯子・港南・金沢区の 4 区）合同という事で 240 名定員の会場が満員となり、熱気溢れる研修となりました。

講義は磯子中央病院の紹介からはじまり、実際の 2 つの事例を通して、入院から退院までの MSW をはじめリハビリ職や医師、看護師及びケアマネジャー等の動きをフローチャートに沿ってわかりやすく説明していただきました。転院や自宅復帰までの流れや療養型病院への入院基準など、具体的な説明を織り交ぜた講義でした。適宜、質疑応答を交え、日頃の疑問点や問題点を理解し共有する良い機会となりました。

病院の機能分離によって、在院日数の短縮が押し進められている現状では、早期に自宅復帰や転院を迫られる場面がより増えてくることや、医療的処置が必要な状態での退院も多くなる事が予想されます。その際、適切に



対応できるようにケアマネジャーとして、病院内での経過やご家族・ご本人の意向等をしっかりと把握することがとても大切だと感じました。

今回、この研修で病院を入退院するご利用者やそのご家族に不利益にならないよう、入院時の適切な情報提供と MSW や主治医をはじめとする医療関係者との連携の重要性を再確認することができました。この事を今後の業務に活かし、より良い支援ができるように努めていきたいと強く感じた研修でした。

